

キックベース競技要綱

文責：和泉沙音、柴崎悠人、菊地巧真

【日時】

2026 年 5 月 16 日(土)

2026 年 5 月 17 日(日)

※雨天時について

当日または前日が雨天であった場合は試合を中止または会場を変更する場合がある。

【会場】

野球場、多目的グラウンド

【部門】

一般部門

〈登録制限〉

- ・キックベース内で 1 人が複数のチームに所属することは禁止する。

【試合形式】

エントリーチーム数により、以下のいずれかの形式で行う。

◎トーナメント形式

- ・準々決勝までは試合規定回数を 5 イニング、試合規定時間を 35 分とする。5 イニング終了時点で同点の場合は延長戦をタイブレーク制で行う。但し、試合規定回数に達しない場合でも、試合規定時間を過ぎると思われる場合は審判の判断により新しいイニングには入らない。それでも決着がつかない場合は代表者によるジャンケンで勝敗を決める。
- ・準決勝以降は試合規定回数を 7 イニング、試合規定時間を 50 分とする。7 イニング終了時点で同点の場合は延長戦をタイブレークで行う。但し、試合規定回数に達しない場合でも、試合規定時間を過ぎると思われる場合は審判の判断により新しいイニングには入らないものとする。それでも決着がつかない場合は代表者によるジャンケンで勝敗を決

第 50 代スポーツ・デー学生委員会

める。

※タイブレーク：イニングの最初を 2 アウト満塁の状態で行うこと。

- ・コールドはなしとする。

◎リーグ形式

- ・試合規定回数を 7 イニング、試合規定時間を 45 分とする。(但し、試合規定回数に達しないうちに試合規定時間を過ぎると思われる場合は審判の判断により新しいイニングには入らない。)
- ・勝敗が決した場合は勝利チームに 3 点、同点の場合は両チームに 1 点の勝ち点を与え、勝ち点の多いチーム、当該チーム間の勝敗、得失点差が多いチームの順で順位を決める。それでも決まらない場合は代表者によるジャンケンで順位を決める。
- ・コールドはなしとする。

【選手】

- ・原則として、公認野球規則に準ずる。
- ・試合規定人数の 1 チーム 6 人と交代要員の 6 人の最大 12 人まで登録できる。
- ・試合開始最低人数は 1 チーム 5 人。
- ・試合開始時に試合開始最低人数に満たない場合はペナルティを課す。

※ペナルティ

- ・試合開始後に、出場人数を増やすことはできない。(交代での出場は可能)
- ・相手チームに 3 点を与える。
- ・試合開始時間から 5 分を超えた時点で試合開始最低人数を満たさない場合、当該チームを不戦敗とする。
- ・交代は自由だが、打順の変更はできない。
- ・ハンディキャップを適用する場合、男子の人数は試合開始時より増やしてはならない。

【コート】

- ・三角ベースを使用する。
- ・三角形のホームベースを用い、その横幅をストライクゾーンとする。

第 50 代スポーツ・デー学生委員会

- ・ホームベースを中心とする半径 7m の弧をバントラインとし、半径 12m の弧を守備ラインとする。
- ・本塁と一塁間の距離は 21.5m とする。
- ・一塁においてダブルベースを使用する。
- ・一塁と二塁を結んだ直線を内野ラインとする。
- ・ワンベースラインを採用する。(詳しくは「走者」欄を参照。)
- ・コート of の広さは無制限とする。(但し、ワンベースラインは例外とする。)
- ・フェアの打球がプレイングフィールドの外へ出た場合、打者に 2 つの安全進塁権を与え、エンタイトルツーベースとする。

【投手】

- ・投球はホームベースから 12m の距離にある規定の位置から行う。
- ・意図的なノーバウンドまたはバウンドボール、速球と審判が判断した場合はボールと判定する。
- ・申告敬遠を可能とする。
※申告敬遠：守備側のチームが敬遠の意思を申告すると、投手が投球せずに打者は四球となる。

【打者】

- ・打撃は全て足で行う。
- ・ファウルはすべてストライクとみなす。(2 ストライク後のファウルは三振とする)
- ・バントラインを越えない打球はファウルとする。但し、そのラインを越える前に守備がボールに触れた場合はその打球はフェアとする。
- ・自打球に触れた場合はファウルとする。
- ・打撃時に軸足がホームベースラインより完全に前に出ている場合はファウルとする。
- ・振り逃げは適用しない。
※振り逃げ：捕手が第 3 ストライクが宣告された投球を捕球できなかった場合に、三振で直ちにアウトになることを免れた打者が一塁への進塁を試みるプレイ

【走者】

- ・ 打者がボールを打つまでベースを離れてはならない。
- ・ ベースから離れた状態で走者に打球が直接当たった場合はアウトとする。但し、一塁を走り抜けた後の場合を除く。
- ・ タッチアップルールを適用する。
※タッチアップ：打者の打球を野手がノーバウンドで捕球した際、走者は一度帰塁することで次の塁へ進むことができる。
- ・ 各コートにワンベースラインを引く。悪送球などにより守備側の送球がワンベースラインの外に出た場合は全走者に1つの安全進塁権を与え、ボールデッドとする。
- ・ スライディングは禁止とする。

【守備】

- ・ 捕手の配置は任意とする。捕手を配置しない場合は投球時の捕球とその返球のみ主審が行う。
- ・ 捕手は、打者がボールを打つまでホームベースラインより守備側に出ることは禁止とする。
- ・ 内野の守備位置は、打者の打撃を妨害しない範囲で自由とする。審判の判断により守備位置の変更を命ずることがある。
- ・ インフィールドフライは適用しない。但し、明らかに故意な落球をしたと審判が判断した場合、捕球できたものとしてプレーを処理する。
- ・ キックによる送球は可能とする。
- ・ ランナーのタッチアウト、フォースアウトは公認野球規則に準ずる。
※守備側の送球がランナーに当たった場合でもランナーはアウトにならない。なお、故意にランナーにボールを当ててアウトにしようとする行為やランナーが守備側の送球を妨害する行為は危険なので厳禁とする。

【ハンディキャップ】

第 50 代スポーツ・デー学生委員会

- ・対戦する 2 チーム間で出場する女子の人数に差がある場合は女子が多い方のチームに 6 点を上限とし、(女子の人数差) × 2 点を与える。なお、ペナルティが発生した場合に与えられた点数はこの 6 点には含まない。
- ・なお、両チームの合意があればハンディキャップを適用しなくてもよい。この場合、交代時のチームの男女の構成人数の変化は考慮しない。

【審判】

スポーツ・デー学生委員会

【諸注意】

- ・選手本人が登録されていないチームで参加することは禁止とする。
- ・不正出場があったチームは失格とする。
- ・試合では、スポーツ・デー学生委員会の用意したボール以外の使用は禁止とする。
- ・怪我予防のため、運動に適した服装で参加のこと。但し、スパイクシューズの着用は禁止とする。
- ・会場内での食事は禁止とする。
- ・審判の指示に従わなかった場合は選手の退場、チームの失格等の措置をとる。
- ・安全のため、フィールド外でボールを蹴る行為を伴うアップ等は禁止する。ボールの貸し出しは、投手の投球の練習に限り、直後に試合があるチームにのみ貸し出す。